

# がん治療に 西洋医学と漢方の融合を

## 免疫力向上とともに体や精神面の負担も軽減

がんの克服は人類にとっての悲願。がん標準治療の限界が指摘される中、漢方薬『THL-P』の抗がん作用が世界の医学会から注目されている。国立台湾大学医学院付属医院で、『THL-P』の臨床試験が行われ大きな成果を得た。試験を行った准教授の郭文宏氏の来日講演から臨床試験結果及びエビデンス（科学的根拠）を報告する。

### 国立台湾大学付属医院が 漢方による初のがん臨床試験

24週間にもわたる臨床試験

国立台湾大学（台北市）は台湾最高の大学だが、漢方薬による臨床試験は、創立120年以上の歴史でも初の試み。この講演は昨年11月、東京国際フォーラムで開催された「第15回国際個別化医療学会学術集会」（国際個別化医療学会主催）での「複合抗がん漢方薬（THL-P）の転移性乳がんにおけるヒト臨床試験結果」として行われた。

「臨床試験は抗がん漢方薬THL-Pを使用し、付属病院に入院中の乳がん患者44人を対象に「転移性乳がんに対する安全性及び有効性に関する研究」として行いました。ランダムで被験薬（開発中の薬剤THL-P）

とプラセボ（偽薬）を服用する2グループに分けた二重盲検法を実施。30人を被験薬治療群、14人をプラセボ群に割り振りました。被験薬群には1バイアル20mlの「THL-P」を1日3回、それを24週間投与し、期間中はほかの治療薬の同時投与は禁止しました。

臨床試験の対象者は転移性乳がん患者で最初に行う一次治療、あるいは次の薬として行うサルベージ治療の効果が不十分、これ以上、従来型の治療法を受け入れる意思がないことが条件。

80%以上が効果を実感

漢方抗がん剤を投与した治療群グループは、約半数が24週間のコースを完了したのに対し、



国立台湾大学医学院付属医院主任医師

### 臨床准教授 郭文宏氏

（かく・ぶんこう）1964年12月22日生まれ。1990年6月、国立台湾大学医学部卒業。1998年8月から国立台湾大学医学院付属医院主任医師、臨床准教授。専門は外科で、特に乳がん治療を行う乳癌科の第一人者として活躍中。

副作用にしても、プラセボ群の悪化が進んでいるのに対し、治療群は大幅に改善していました。治療群30人のうち、80%の対象者が「効果を実感できた」と答えています」とい

漢方薬でより良い治療を

プラセボ群は、2カ月以上治療を継続できた例は1例もなかった。「疲労・倦怠感」は、開始当初プラセボ群よりも治療群の方がスコアが悪かったが、治療後は治療群の方が優れたスコアになっていました。プラセボ群ではその項目で改善が見られた例はありません」と郭医師。

さらに、乳がんの特異的QOL（QOL）にも効果が見られた。「免疫機能では治療群が増えたのに対し、プラセボ群は減っていました。同様に、ほかの免疫

図1 臨床試験による有効性の評価基準  
～QOL（生活の質）

	THL-P群	Placebo群	P-value
A			
全群	13.03(21.26)	9.11(20.13)	0.01
転移	9.02(20.21)	5.11(20.06)	0.01
転移+全群	11.57(21.82)	7.22(20.16)	0.01
転移	9.02(21.71)	5.11(20.06)	0.01
全群	10.33(21.71)	6.16(20.06)	0.01
B			
全群	10.19(21.21)	6.11(21.22)	0.001
転移	6.02(21.14)	2.11(21.14)	0.001
転移+全群	8.19(21.21)	4.11(21.22)	0.001
転移	6.02(21.14)	2.11(21.14)	0.001
全群	10.19(21.21)	6.11(21.22)	0.001
転移	6.02(21.14)	2.11(21.14)	0.001
全群	10.19(21.21)	6.11(21.22)	0.001
転移	6.02(21.14)	2.11(21.14)	0.001
全群	10.19(21.21)	6.11(21.22)	0.001
転移	6.02(21.14)	2.11(21.14)	0.001

身体機能、感情のコントロール、認知などが、THL-P服用グループはプラスの数値になっており、生活の質(QOL)が改善されていますが、プラセボグループは0で改善されていないことが分かります。図1～A参照  
また、疲労が軽減されることから生活の質(QOL)の改善に關して、効果が認められると示しています。(図1～B参照)

図2 臨床試験による有効性の評価基準  
～免疫系化学検査

	THL-P群	Placebo群	P-value
C			
全群	61.23(2.23)	58.23(2.23)	0.001
転移	58.23(2.23)	55.23(2.23)	0.001
転移+全群	58.23(2.23)	55.23(2.23)	0.001
転移	58.23(2.23)	55.23(2.23)	0.001
全群	61.23(2.23)	58.23(2.23)	0.001
転移	58.23(2.23)	55.23(2.23)	0.001
全群	61.23(2.23)	58.23(2.23)	0.001
転移	58.23(2.23)	55.23(2.23)	0.001
全群	61.23(2.23)	58.23(2.23)	0.001
転移	58.23(2.23)	55.23(2.23)	0.001
全群	61.23(2.23)	58.23(2.23)	0.001
転移	58.23(2.23)	55.23(2.23)	0.001
全群	61.23(2.23)	58.23(2.23)	0.001
転移	58.23(2.23)	55.23(2.23)	0.001

免疫系に關して、THL-P服用グループのナチュラルキラー細胞の数値が6.0プラスであるのに対して、プラセボは2.5となっています。(図2～A参照)  
また、THL-Pは免疫系を向上させる効果があるということが分かります。(図2～B参照)  
また、THL-Pは免疫系の活性化を促進させる効果も確認されました。(図2～C参照)

協力 NPO法人国際健康研究会

0120-5011-88

http://www.npo5931.com